

# 序論：はじめまして『さんさん山城』ーフィールドワークへのまなざし

1. 研究背景-フィールドとの出会い
  - 1.1 卒論から
  - 1.2 農福連携
    - 1.2.1 農福連携への着目
    - 1.2.2 農の多面的効果
  - 1.3 フィールドへ
    - 1.3.1 フィールドの選択
    - 1.3.2 フィールドに行く
  - 1.4 迫られた方向性の転換
  
2. 方法論的視座-フィールドをどう捉えるか
  - 2.1 エスノグラフィー
    - 2.1.1 フィールドワークとエスノグラフィー
    - 2.1.2 アブダクション
    - 2.1.3 「現場」のエスノグラフィー
    - 2.1.4 「現場」をどう捉えるか
    - 2.1.5 「現場」の問題意識
  - 2.2 「現場」を捉える方法論
    - 2.2.1 エスノグラフィーと社会構成主義
    - 2.2.2 社会詩学 social poetics という視点
    - 2.2.3 方法としての社会詩学
  
3. 方法と倫理ーフィールドとわたし
  - 3.1 方法についての対話
    - 3.1.1 何のための研究
    - 3.1.2 どのように研究を進めるか
  - 3.2 ろう文化と脱植民地化
    - 3.2.1 わたしの立ち位置
    - 3.2.2 社会的抑圧としての障害
    - 3.2.3 抑圧と植民地化
    - 3.2.4 手話とろう文化を学ぶ
    - 3.2.5 学び去ること
    - 3.2.6 無知の姿勢
  - 3.3 本研究の見取り図
    - 3.3.1 研究の脱植民地化へ
    - 3.3.2 研究記録について

## 第1章：『さんさん山城』へ行こう！＝フィールドの歴史的背景

### 1. 運動前夜

- 1.1 聴こえないことを知る
  - 1.1.1 仲間外れ
- 1.2 口話教育とろうあ運動
  - 1.2.1 口話教育
  - 1.2.2 三・三声明
  - 1.2.3 田辺ろうあ運動へ
- 1.3 ステップを踏み続ける

### 2. 運動の幕開け

- 2.1 京田辺に集まってきた者たち
  - 2.1.1 田辺団地に集まる
  - 2.1.2 子育てで生じた社会との接点
  - 2.1.3 京田辺と高度経済成長
- 2.2 田辺ろうあ協会の歩み

### 3. 運動の展開

- 3.1 手話通訳設置運動
- 3.2 手話劇
  - 3.2.1 手話劇との出会い
  - 3.2.2 手話劇のはじまり
  - 3.2.3 想いを劇に
  - 3.2.4 想いを共有する
- 3.3 聴覚障害者支援施設建設運動
  - 3.3.1 相楽聴言センター設置運動
  - 3.3.2 その他さまざまな活動

### 4. 運動の転換点

- 4.1 たまり場を作る
- 4.2 とまとの会
- 4.3 山城地域活動支援センター

## 第二章：『さんさん山城』の広がりーフィールドの展開

### 1. 播種気

- 1.1 場を整える
  - 1.1.1 鍵を開ける
  - 1.1.2 職員の職場を整える
  - 1.1.3 みんなの働く場を整える
- 1.2 就労支援制度を利用する

### 2. 萌芽期

- 2.1 事業化のジレンマ
  - 2.1.1 法人職員との噛み合わなさ

- 2.1.2 場所の争奪戦
- 2.1.3 潰される危機
- 2.1.4 藤永を守る／職員を追い出す
- 2.1.5 圧力を押し切る
- 2.2 農業をする
  - 2.2.1 楽しみとしての農業
  - 2.2.2 地域とつながる
  - 2.2.3 農業の苦勞
  - 2.2.4 地域に支えられる
  - 2.2.5 加工品を作る

### 3. 成長期

- 3.1 「農福連携」との出会い
  - 3.1.1 幸運な勘違い
  - 3.1.2 引っ張り上げられる
- 3.2 市民に支持される場所
  - 3.2.1 最大の機器
  - 3.2.2 市民に支えられる
- 3.3 みんなの台所をつくる
- 3.4 食堂をひらく
  - 3.4.1 巻き込み／巻き込まれる場
  - 3.4.2 会話を交わす場
  - 3.4.3 迎え入れる場
  - 3.4.4 繋がる場としての食堂
- 3.5 活動の広がり

### 4. 活動としての文化

- 4.1 『さんさん山城』の活動の意味
  - 4.1.1 とともに居ることのよろこび
  - 4.1.2 お金のためじゃない
  - 4.1.3 対等に働く／植原優
  - 4.1.4 誰ば利用者で誰が職員か
  - 4.1.5 大家族の人海戦術
- 4.2 来る人去る人
  - 4.2.1 来る者拒まず
  - 4.2.2 去る者追わず
  - 4.2.3 追い出される職員
- 4.3 文化としての活動の場
  - 4.3.1 原点としての文化活動／藤永実
  - 4.3.2 土壌としての生活
  - 4.3.3 よろこびをつくる文化活動